蔵王山の火山活動解説資料（令和８年10月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２-①）

遠刈田温泉監視カメラによる観測では、丸山沢の噴気は認められませんでした。刈田岳２及び蔵王山御釜監視カメラ（東北地方整備局）による観測も含め、御釜付近に噴気は認められませんでした。

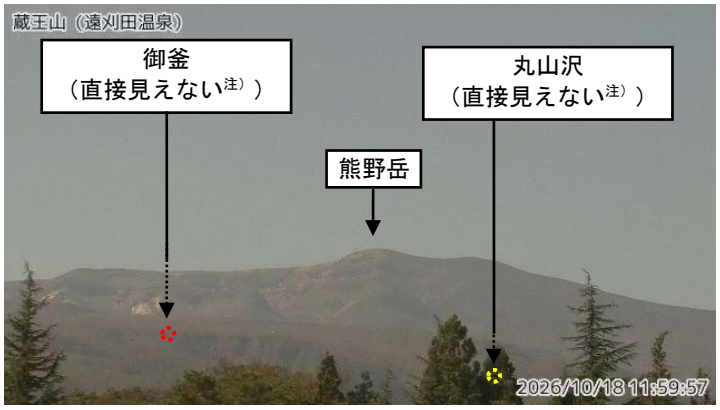
・地震や微動の発生状況（図２-②～⑤）

地震活動は低調に経過し、火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図２-⑥、図３、図５）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50ｍメッシュ（標高）」を使用しています。







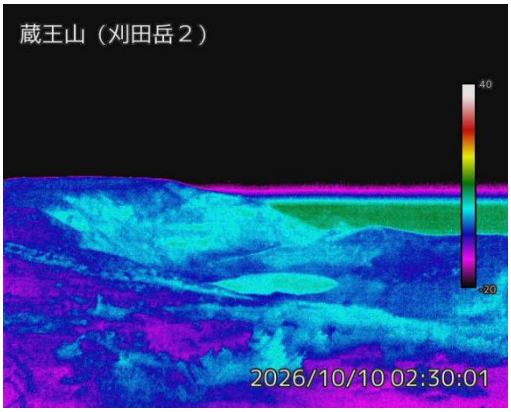


図１　蔵王山　山頂部の状況

・左上図：遠刈田温泉監視カメラ（山頂の東約13㎞）の画像です。（10月18日）
・右上図：東北地方整備局が設置している蔵王山御釜監視カメラ（御釜の南南西約700m）の画像です。（10月18日）
・下図：刈田岳２監視カメラ（御釜の南南西約700m）の可視及び赤外熱画像です。（可視：10月18日、赤外：10月10日）

注）監視カメラからは直接見えませんが、赤破線が御釜の位置を、黄破線が丸山沢の位置を示します。御釜から噴気が噴出した場合は高さ200m以上のときに、丸山沢の噴気は高さ100m以上のときに観測されます。

噴気は認められませんでした。

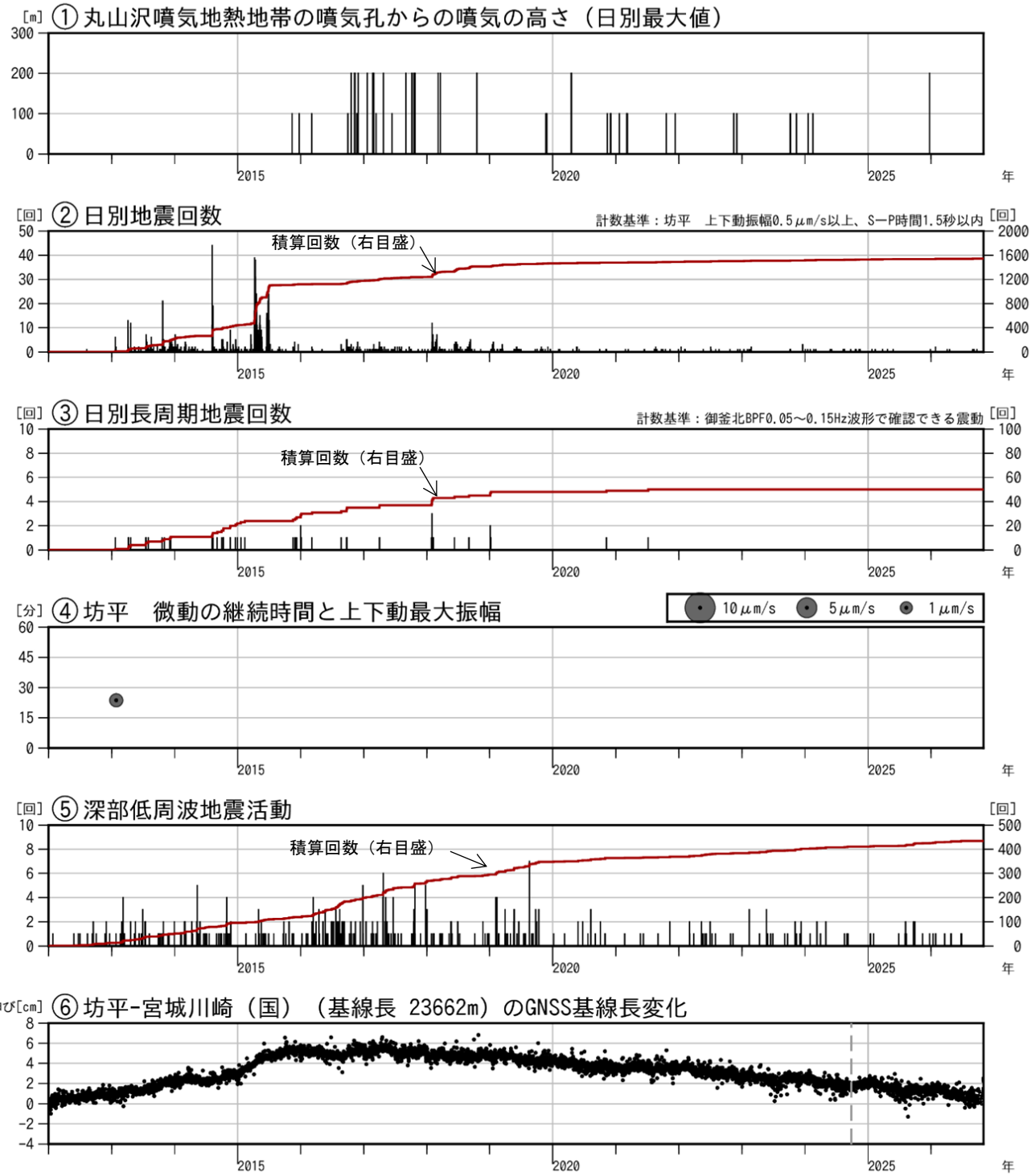


図２　蔵王山　火山活動経過図（2012年１月～2026年10月）

・②日別地震回数に③の長周期地震の回数は含まれていません。長周期地震とは周期が 10 秒程度と長い地震です。浅い領域の熱水や火山ガスが関与していると考えられます。
・⑤深部低周波地震（御釜の東から南東側の深さ20～30km付近を震源とする）の回数には、震源精度がやや劣るものも含まれています。
・⑥GNSS 基線長変化は図５基線①に対応しています。坊平観測点の機器更新を行いました（破線）。
・火山活動が活発化した前後の2013年から2019年頃にかけて、地震活動や地殻変動、噴気の高さ等の各観測データに変化が見られました。

各観測データに特段の変化は見られず、静穏な状態で推移しています。

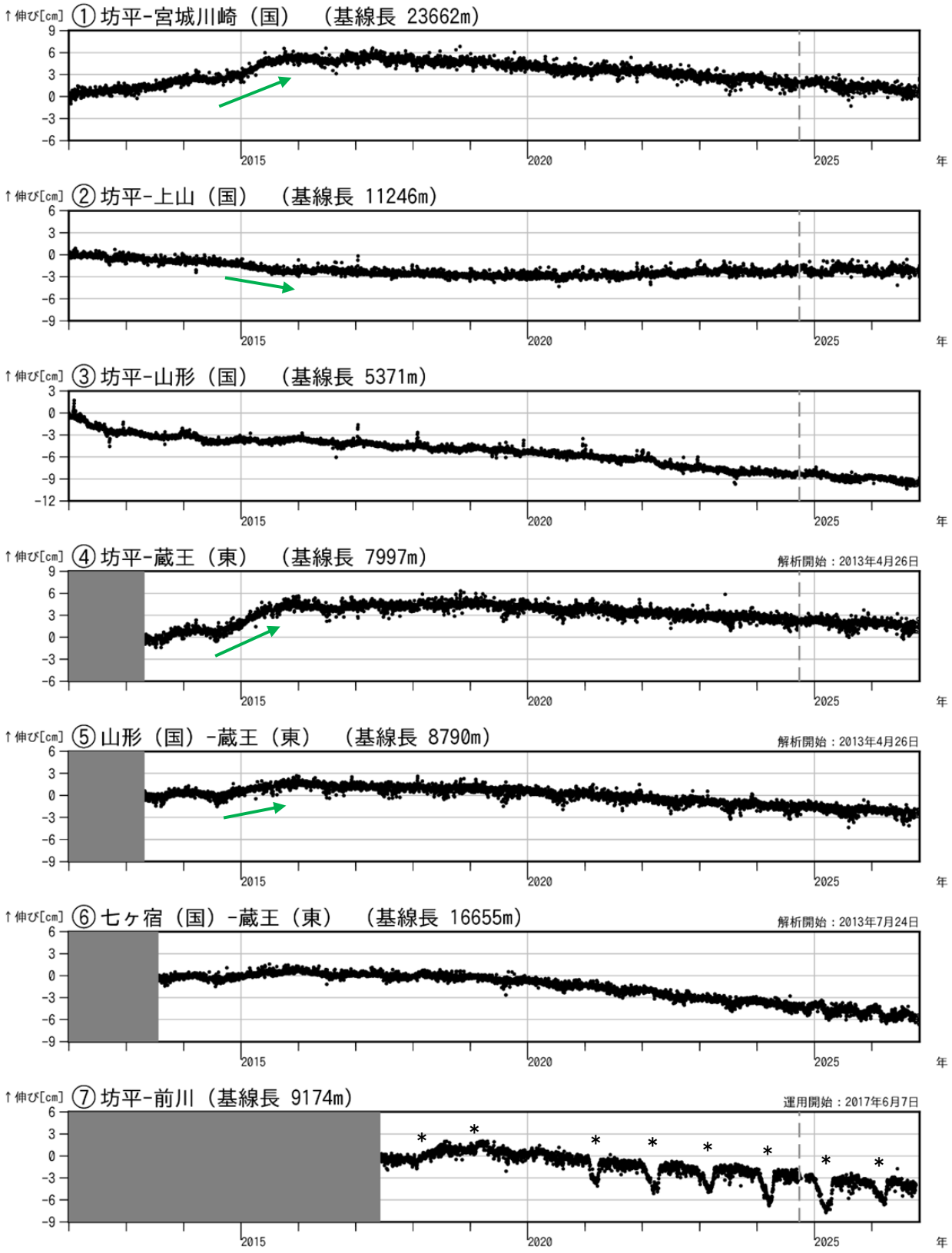


図３　蔵王山　GNSS 基線長変化図（2012 年１月～2026 年 10 月）

・①～⑦は図５の GNSS 基線①～⑦に対応しています。
・空白部分は欠測を表しています。
・（国）は国土地理院、（東）は東北大学の観測点を示します。
・①～④⑦の破線は、坊平観測点の機器更新の実施を示します。
＊：前川観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

2014 年から 2015 年の火山活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されましたが、その後火山活動によると考えられる変化は認められていません。

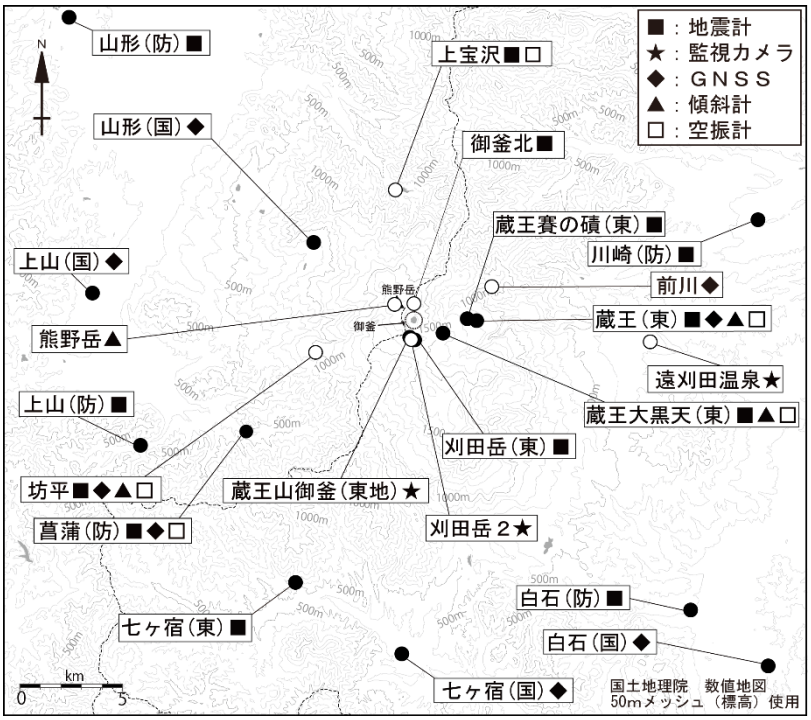


図４　蔵王山　観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東地）：東北地方整備局　（国）：国土地理院
（東）：東北大学　（防）：防災科学技術研究所

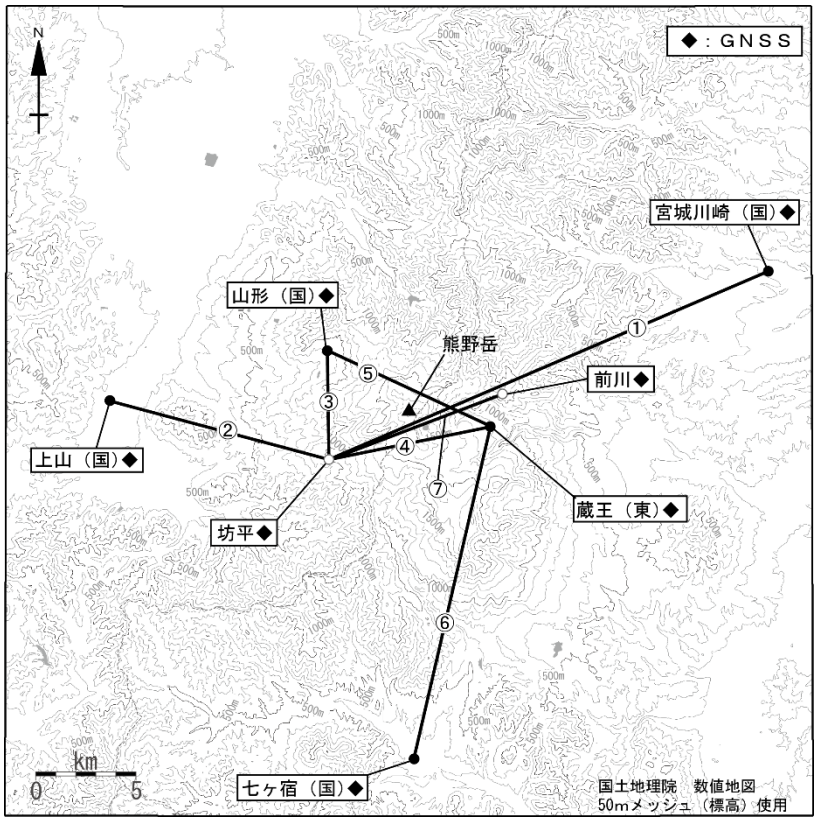


図５　蔵王山　GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院　（東）：東北大学